

悩み2

3学年の夏休みを前に、まだ進路が曖昧な生徒がいる。このままモラトリアム化しないか心配。どうすればいいだろう？

生徒同士で「やばい！」と気づかせましょう

構成的グループエンカウンターを活用しましょう。進路について考えが進んでいる子、普通の子、遅れている子が混じった6人ずつくらいのグループを作り、「夢の実現のために夏休みにすること」を3つずつ考えて語り合わせる。すると、他の生徒が意外に真剣に考えていると気づき、「やばい！」と思うわけです。

これは発達心理学の基本的な考え方です。自分よりもはるかに進んでいる人と話しても刺激は受けづらいが、少しだけ自分よりも頑張っている人の話に一番刺激を受ける。ですから、グループ分けが命。好きな人同士だと仲間で集まってしまい、「まだやらないでも大丈夫」と逆効果(笑)。血液型や誕生日別など、普段と違うグループ分けを考えましょう。ただし、それで意図したようにランダムになるか、事前のシミュレー



ションも大切。難しそうなら、くじ引きなどでも結構ランダムになります。それでも失敗したと思うグループがあった場合、最初はそのまま「夢の実現のために何をするか」を話し合わせ、その後グループを変えて「夏休みにすること」を話し合わせるなど、変化をつけましょう。

また、卒業生を呼んで、夏休み中のオープンキャンパスの意味や楽しさを語つてもらうのもいいですね。加えて、この時期は親の期待と自分の本当にやりたいことの間で悩む生徒も増えてきます。そういう生徒の相談に乗つてあげることも大事です。

もろとも・よしひこ●明治大学文学部教授、臨床心理士、教育学博士。1963年福岡県生まれ。筑波大学人間学類・同大学院博士課程修了。千葉大学教育学部助教授を経て現職。全国の悩める教師のためのセルフヘルピングやネットワーキングを支援する“教師を支える会”代表。時代の精神(ニヒリズム)と闘うカウンセラー。『偶然をチャンスに変える生き方 最新キャリア心理学に学ぶ』『「7つの力」を育てるキャリア教育』など著書多数。